

成果の説明書

(氏名) 西野寿章	(学部) 地域政策学部
1 重要事項	
【研究成果】	
(1)論文	
1)西野寿章(2014)：「東京の電気事業と電源開発」, 地学雑誌 123-3 , pp.298-314.	
2)西野寿章(2014)：「戦前の山村における電灯会社の展開と住民の対応 — 岐阜県上之保電気を事例として —」, 産業研究(高崎経済大学産業研究所紀要)50-1 , pp.1-27.	
(2)研究ノート, その他	
1)西野寿章(2014)：「国土形成と山村の役割」, 人と国土 21(国土計画協会)40-4 , pp.15-19 .	
2)西野寿章(2014)：「山村の土地利用変化と今日的課題」, 土地総合研究(土地総合研究所) 2014 年秋号, pp.42-53.	
3)西野寿章(2015)：「日本一の高齢化山村の形成過程に関する一考察 — 群馬県南牧村・神流町を事例として —」, 産業研究(高崎経済大学産業研究所紀要)50-2 , pp.30-46 .	
4)須藤祥子・西野寿章(2015)：「横川の獅子舞」, 群馬県教育文化事業団編『平成 26 年度伝統文化継承事業 調査報告書』, pp.12-13 .	
【受賞】	
地理空間学会・学術賞 西野寿章(2013) 『山村における事業展開と共有林の機能』原書房.	
【学外研究費獲得状況】	
1)日本学術振興会科学研究費基盤研究(C)「戦後の山村における電力空白地域の配電過程に関する地理学的研究」(課題番号 25370917 , 平成 25 ～ 27 年度, 研究代表者・西野寿章).	
2)日本学術振興会科学研究費基盤研究(C)「日本農業の存続・成長戦略に関する地域動態的研究」(課題番号 26370917 , 平成 26 ～ 28 年度, 研究代表者・筑波大学・田林 明名誉教授).	
3)日本学術振興会科学研究費基盤研究(A)「中山間地域における林業合理化・森林管理・住民生活の為のマネジメント=モデルの構築」(課題番号 23320182 , 平成 26 ～ 30 年度, 研究代表者・大阪大学大学院文学研究科・堤 研二教授).	
【教育成果】	
【講義】 担当講義の学生評価は, 前期の地域政策学入門 C(84.9), 農村地理学(91.0), 後期の観光地理学(91.2), 地域開発論(94.7)であった。必須科目である地域政策入門の理解度を見ると「理解できた」38%, 「概ね理解できた」59%となっており, 授業内容については79%が「適切」と回答しているものの, 18%が「やや難しい」と回答しており, 受講生に理解しやすい授業となるように努力し, 問題意識を持って地域政策学を学べるように工夫したい。	
【演習】 担当している演習 I (3 年生)では, 毎年, 群馬県内の山村にフィールドを設定して, 研究報告書をゼミ生と教員が費用を負担して刊行している。平成 26 年度は群馬県神流町の内, 旧万場町地域を研究し, 3 月に『外帯型山村の現状とその要因』をまとめ, 3 月 18 日には神流町からの依頼で町議会議員, 職員を対象とした研究報告会をゼミナール生と教員で行った。演習 II (4 年生)は, 全員卒業論文を完成させ卒業した。	
【大学院】 平成 26 年度は修士課程 2 名, 博士課程 1 名が在籍し, 修士 2 名は課程を修了した。博士課程 1 年生に対して学会発表を行うための研究指導を行った。博士課程院生の研究テーマは	

未開拓分野の研究であり、その成果は期待できる。

【社会的活動】平成 26 年度に学外で担当した委員等、社会的活動は次の通りである。

【学会関係】

1)日本地理学会・E-journal GEO 編集委員会委員、2)人文地理学会・学会賞候補者選考委員会委員(27.1 ～)、3)経済地理学会・評議員、4)経済地理学会地域大会コメンテーター(山梨県小菅村、26.10.14)、5)群馬地理学会・庶務委員長。

【行政関係】

1)林野庁関東森林局国有林管理審議委員会委員、2)群馬県・ぐんま緑の県民税評価検証委員会委員長、3)群馬県・中山間地域総合検討委員会委員、4)群馬県・公共事業再評価委員会委員、5)群馬県教育文化事業団・ぐんま伝承文化継承委員会委員、6)群馬県埋蔵文化財調査事業団評議員、7)群馬県森林・緑整備基金評議員、8)高崎市市有林管理委員会副委員長。9)日本学術振興会・科学研究費委員会専門委員(平成 25 年 12 月～ 26 年 11 月)。

【シンポジウム・講演・講師等】

1)国土開発センター・国土利用研究会講師(26.5、東京・国土開発センター)。2)びわ湖の森の生き物研究会基調講演(26.6、滋賀県近江八幡市民センター)。3)奈良大学文学部地理学教室特別講義講師(26.6、奈良大学)。4)コンベンション計画を考える県民の集い・シンポジウムパネラー(26.7、高崎市福祉センター)。5)(財)地域生活研究所・エネルギー勉強会講師(26.8、東京生協連本部)。6)高崎市吉井町奥平地区地域づくり勉強会講師(26.12、中奥平公民館)。7)水資源機構・徳山ダム管理所研修講師(26.12、岐阜県揖斐川町徳山ダム管理所)。7)群馬県神流町・山村地域研究成果報告会(27.3、神流町役場)。

2 その他の事項

- ・平成 25・26 年度の 2 年間、国際交流センター長を務め、平成 24 年度から開始された海外研修制度の充実、受入交換留学生への担任制導入、カリキュラムの整備を推進した。
- ・平成 26 年度から 3 年間の計画で産業研究所の研究プロジェクト「群馬県における製造業の現状に関する研究」を立ち上げ、経済学部、地域政策学部の教員 10 名と共に群馬県の中小企業の実態分析を進め、1 年目の今年度は群馬県内のすべての商工会議所の協力を得てアンケートを実施した。

3 次年度の研究計画

- ・3 年生の演習は、今年度より観光に特化した山村地域の研究を行う。具体的には、旧宿場町の街並みの観光資源化に取り組んだ長野県木曾谷の山村を研究対象とする。研究室としては初めての試みであることから、研究方法について検討する。
- ・産業研究所の製造業研究プロジェクトは 2 年目に入り、前半は 1 年目に実施したアンケート結果の分析を行い、後半はアンケートで判明すると思われる企業類型に対応した企業ヒアリングを研究メンバーと共に進めていきたい。
- ・4 月に発足し、所長に任命された地域科学研究所について、法人の方針に沿って学術研究を基礎としつつ、地域貢献の拠点となるよう所員メンバーと共に努力していきたい。
- ・獲得している科学研究費の内、自身が研究代表者となっている研究が最終年度を迎える。これまでの調査結果をふまえ、独創的な研究成果を得られるように調査研究に取り組むことをはじめ、科学研究費の成果については積極的に学会で発表し、論文化を進めたい。